



社会福祉法人 恩和会

～社会福祉施設での肉牛繁殖肥育の取り組み～

青森県十和田市

社会福祉法人恩和会は、元理事長により開墾された水田耕作が礎となっています。障がいのある実子の社会参加の場としての取り組みがきっかけとなり、昭和62年には社会福祉法人としての認可を得て、農作業を通じた障がい者の授産施設として歩み始めました。現在、18歳以上の利用者38名が福祉ホーム、グループホーム^{※1}や自宅から農工園千里平に通って、畜産(肉用牛繁殖、一部肥育)を実施しています。

福祉による支援が必要な人を農業で受け入れるのでは無く、福祉支援者が農業に取り組んで社会参加と就労の場を提供している点が特徴です。そのため職員は障がい者の支援だけではなく、家畜管理を含む農作業の支援・指導に長けています。

こうした取り組みにより、県共進会、枝肉共励会などで数々の上位入賞を果たし、県試験場の供卵牛に選抜されるなど優良牛の生産に一役かっており、家畜市場販売を通じて地域畜産振興に寄与しています。

法人経営概況

① 経営内容

肉用牛繁殖、一部肥育。県内でも最大規模の頭数。繁殖牛85頭、肥育牛7頭、育成・子牛47頭、合計139頭
複合経営 ごぼう

② 労働力

施設利用者38名と支援員数名

③ 法人形態

社会福祉法人

④ 特徴

障がい福祉サービス事業所農工園千里平(就労継続支援B型、移行支援)としての運営

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

38名(男性29名、女性9名)、主に知的障がい

② 就労形態

就労継続支援B型事業所^{※2}(雇用契約を結ばない)の利用者 34名
就労移行支援事業所^{※3}の利用者 4名

③ 通勤、住まい、食事など

本人の暮らしを支える福祉ホーム、グループホームを用意し、施設としての機能を強化中。グループホームまたは自宅からの通勤。

④ 特徴

県の平均工賃を超える水準で工賃^{※4}を支給。

利用者の情操教育にも力を入れてきており、「茶道」を取り入れ、心の安定確保を図っている。正装して日本的伝統文化に触れる機会として毎年恒例の初釜会を開催。

立地条件など

十和田市は、県の南東中央部に位置し、東方には三本木台地が広がり、十和田湖を源とする奥入瀬川、稻生川など多数の河川が大地进行を横断し太平洋へと流れています。冷涼で四季がはっきりしていますが、晩春から夏にかけてヤマセ(偏東風)が吹いて低温が続く、農作物に大きな被害を及ぼすことがあります。



障がい者が主に担う作業

利用者は、主に黒毛和牛の飼育を中心とした畜産班に所属しており、様々な作業を担います。畜産班はさらに4班に分かれています。

一日の作業

- 8:00 出勤 ラジオ体操・朝礼
- 8:45 作業訓練(各班毎に)
掃除・えさ(牧草、わら)やり
(休憩)牛出し・堆肥あげ
- 12:00 昼食
- 13:00 作業訓練(各班毎に)
掃除・えさ(牧草、わら)やり
牛入れ・(休憩)道具の片付け
- 16:00 退勤



他に水稻班、ゴボウ班、家庭科班などがあります。家庭科班では、作業着の洗濯、おやつ準備、園内の草取りや花植えなどの環境整備を担当します。



■仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- 作業は、個人の個性や障がい特性などに応じて、割り振られています。エサやりのうち、エサの配合や計量の作業は、習熟した担当者が行います。エサを載せたネコ車を動かす作業や掃除は比較的易しい作業です。
- 園では、日常の関わりから流通にのり販売されるまでの工程を情報提供しています。畜産班のメンバーは、愛情をかけた長時間の牛体ブラッシングなど日常の関わりを通して、穏やかで人に良く慣れた牛が育つことに喜びを感じています。結果として共進会でチャンピオン賞を取るまでの結果が得られ、より積極的な牛飼育活動となり、それぞれの目標となっています。
- 広々とした農場を確保した飼育環境の元、手間暇をかけた分だけ牛が人になつき、利用者は自信を持って飼育に参加し、プラスに働く好循環の中で、牛にも人にも心地よい環境となっています。
- 牛を世話することで生み出される責任感と牛に対する愛情が牛からも返ってくることでさらに牛が良くなつくという好循環とで充足感が生み出されています。このことから農工園の「牛づくりは人づくり」のモットーが生まれたといえます。



- 福祉施設の視点で農工園を捉えたとき、授産施設での飼育は、働く障がい者の安全面から一般的に豚や鶏の中小家畜が一般的で、大家畜である肉用牛飼育は希といいますが、農工園での成功例は他の施設にも大いに参考になります。
- 肉用子牛の価格高騰もあり、利用者には、青森県の平均工賃額(12,000~13,000円/月)以上の工賃を還元しています。中でも難しい作業(個体・生育ステージ別の餌やり)を担う人には、5万円以上の工賃を支給しています。

- 支援者(施設職員)が利用者の可能性を信じ、我慢強く見守りながら一人ひとりの個性と障がい特性に応じた環境で、適した仕事を作り出しています。特に仲間意識をもち、集団の中で相互に助け合える環境が、本人のやる気と体力と潜在的な能力を引き出していました。事業所の運営方針並びに指導目標にある「利用者が自らの実践を通して体得させる」に通ずるものです。

■ 取り組みの経緯

初代理事長夫婦は、障がいのある長女が養護学校高等部を卒業しても働き場のない状況を痛感していました。卒業後の社会参加の場として、同じ境遇に置かれている親子らのため、私財を投じて昭和58年に在宅障がい者の働き場となる施設建設に着手しました。この働き場となる施設作りへの取り組みが、障がい者との関わりのきっかけとなっています。

施設が始動したときは、利用者は娘も含めて2人で、取り組む支援内容も手探りでした。実験用のマウスの飼育も行うなど試行錯誤の繰り返しだったようです。牛との出会いは、初代理事長の牛好きが高じて、十和田市内の畜産農家から一頭を寄付されたことがきっかけでした。

■ 地域との関わり

堆肥と稲わらを地域の農家と交換して自然循環農業の推進に寄与しています。



■ 今後の展望、課題

- 施設全体では高齢化についての検討が必要な状況があり、働く者の住む場の確保として用意された福祉ホームは支援が無い前提となっていますが、個別な事情では支援が必要な状況が生じており今後の課題とされています。
- 実質的に授産施設に併設している畜産経営ですが、一般の畜産経営が障がい者就労という点で授産施設と連携・協力する形態の優良な参考事例にもなりそうです。

障がい者就労に関わる用語

- ※1 グループホーム → p.56
- ※2 就労継続支援B型事業所 → p.56
- ※3 就労移行支援事業所 → p.56
- ※4 工賃 → p.56

関連情報

法人URL <http://onwakai.jp/>

所在地 青森県十和田市大字八斗沢字家ノ下310-1

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会

農事組合法人 トキワ養鶏

～‘仕事の切り出し’に期待がかかる障がい者雇用の拡大～

青森県南津軽郡藤崎町

トキワ養鶏は、飼料に米を活用した採卵鶏を平飼いで行っています。飼養羽数は4万羽、品種は「ごとうもみじ」で、飼料に活用している米は、転作田や耕作放棄地に飼料用米を作付けしたものを採卵鶏に給与し、飼料自給率の高い付加価値鶏卵を生産しています。

配合飼料の高騰から、平成18年に休耕田に飼料用米を作付けし給与したところ、栄養面、生産面で輸入飼料に遜色の無い結果を得て、翌年から農家の協力を得て飼料用米を生産することとなりました。飼料用米を生産する農家には、組合で製造する発酵鶏糞の投入をお願いし、耕畜連携も図っています。

平成15年に弘前市障害者生活支援センターからの紹介で、養護学校^{*1}卒業生1名の雇用を始めてから、12年間継続しています。調査の翌年度からは、系列の有限会社トキワ農場で新たに障がい者1名を雇用予定です。

法人経営概況

① 経営内容

採卵鶏、成鶏4万羽、平飼い

② 労働力

雇用35名、アルバイト15名

③ 法人形態

農事組合法人(昭和36年設立)

④ 特徴

- 国産鶏の「ごとうもみじ」を平飼いで飼育し、自然のままですトレスを与えない環境で卵を生産。
- ヒナの段階から抗生物質を使用せず、輸入トウモロコシを減らし、青森県産飼料用米を配合して育成。ヒナから大雛までの一貫飼育・管理。
- トキワ養鶏は、豪雪地域に働く場所を作るため国の振興支援を受けて昭和35年に設立された「常盤村養鶏農業協同組合」のグループ会社です。グループ内には、ヒナの育成センターや、卵の洗浄や選別を行うGPセンターのほか、養豚および、リンゴ栽培等耕種農業を行う2つの農事組合法人と、採卵鶏を扱う有限会社トキワ農場があります。グループ全体で「トキワ循環型農業(有畜複合農業)」を実現しています。

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

1名、知的障がい

② 就労形態

直接雇用(県の最低賃金を支給)、社会保険加入

③ 通勤、住まい、食事など

公共交通機関(バス、電車)を利用して、弘前からおよそ1時間かけて通勤

④ 特徴

- 平成15年、弘前市障害者生活支援センターからの紹介で養護学校の卒業生(当時25歳)を受け入れて以降、12年間雇用を継続。

立地条件など

青森県津軽平野のほぼ中央に位置し、農業に適した肥沃な土壌に恵まれています。気候は、津軽平野の中では比較的温暖で、水と緑に囲まれた豊かな自然が四季折々に彩を添えるなど、変化に富んでいます。晴れた日は、岩木山が良く見えます。

障がい者が主に担う作業

- 給餌補助や堆肥製造補助を担当しています。主には堆肥場で仕事をしています。

仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- できる仕事の幅は大きくはありませんが、一人でできる作業は支援が無くとも進められる状況にあります。人との会話は不得意との会社の判断ですが、指示されたことは継続してひたむきに取り組んでいます。
- 職場のルールとして挨拶を重んじています。指示が出しやすい仕事を日々の関わりの中で割り振っています。
- 他の職員が本人の事情を理解しており、色々な面で配慮し、カバーしています。

取り組みの経緯

- 現在働いている1名は弘前市障害者生活支援センターからの紹介で雇用しました。その後の人材の募集は、障害者就業・生活支援センターなどに仕事内容を伝えて見合う人材を確保するという方法で行っています。この点については、これまで障がいのある本人の様子を見極めて必要な仕事を切り出す方法を意識したことがなく、今後の課題ということです。

今後の展望、課題

今後の方針としては、障がい者雇用を拡大していきたいと考えています。全国的に畜産系の従事者のなり手が少ない中で、真面目にひたむきに仕事に取り組んでくれれば進んで受け入れたいとのことでした。

障害者就業・生活支援センターなどに「補助作業で無く、仕事を任せられるレベルの人の紹介」を依頼していましたが、当面該当する者がいないとのこと保留中となっています。

なお、訪問直後の4月から系列の有限会社トキワ農場で特別支援学校の新卒者1名の採用を見込んでいるとのことでした。給与面では、県の最低賃金を予定しています。

障がい者就労に関わる用語

※1 養護学校 → p.57

関連情報

法人URL <http://www.tokiwa-group.com/index.html>

所在地 青森県南津軽郡藤崎町大字常盤字富田3番地4



施設入口



ごとうもみじ



飼料米配合飼料

(写真：トキワ養鶏 Web サイトより)

コラム

見学者による自問自答

- ①畜産現場での障がい者雇用に期待が大きく膨らんだ。この経営規模と作業形態では、障がい者の常時雇用が、あと2～3名は見込めるか。
- ②しかし、募集しているレベルが高度なため該当する者が見当たらないのが実情。この募集レベルをクリアする者であれば、畜産に限らずどの業種でも欲しい人材であり、提示できる給与・待遇の差の問題か。
- ③雇用体力のあるこのような法人経営に、健常者並みの障がい者ではなく、もう少し障がいレベルの高い者の雇用・就労についても問題提起。
→「作業の切り出し」により、人材のミスマッチは解決できる!



長谷川自然牧場株式会社

～ふれあい体験牧場における女性障がい者の雇用経験～

青森県西津軽郡鰺ヶ沢町

長谷川自然牧場は、昭和49年以来、葉たばこを栽培していましたが、農薬による体調不良が続いたため、昭和61年から自然養鶏に切り替えました。鶏糞を肥料とした鶏のえさを生産する循環型農業を実践していましたが、不足する肥料分を補うため、昭和63年から低コスト畜舎やエコフィードを活用して養豚部門を開始しました。

グリーンツーリズムインストラクターの認定を受けていて、農業の楽しさや食・命の大切さを伝えるための食育活動に積極的に取り組んでおり、県内外から子供たちや学生、消費者など年間2千人から3千人の訪問者・体験受け入れを行っています。

平成14年から26年の12月までは、福祉施設からの依頼で知的障がいの女性2名を雇用していました。平成27年からは、障害者手帳^{*1}を持っていない2名を新たに雇用しています。

法人経営概況

① 経営内容

畜産経営 養豚 繁殖雌豚90頭、肥育豚1030頭、採卵鶏1200羽

製造加工品 ハム30kg/月、弁当60食/日
そのほか、ふれあい動物として、山羊、羊、ウサギ、ガチョウ等を飼育

② 労働力

家族2名、雇用6名、アルバイト2名

③ 法人形態

株式会社

④ 特徴

- 自給飼料に強いこだわり。市販の配合飼料や抗生物質を使用せず、廃棄処分されたオカラ・米ぬか・屑ジャガイモ等の食品加工・農場副産物、食品残渣等を原料とした煮沸加工した飼料を豚や鶏に給与。
- 堆肥は、牧草や野菜栽培に使用、低コスト化経営や環境に優しい循環型農業を実践。
- 肥育豚は通常より4ヶ月長く(約10ヶ月)飼育。肉の旨さやとろける脂身には「長谷川の自然熟成豚」として全国的に高い評価。
- 卵は自家生産飼料を給与して生産し、白身や黄身が盛り上がっていて日持ちが良いとの評価。自然食品の店・アトピー患者の団体・デパート等で高値で販売。

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

2名(男性)、障害者手帳は持っていないものの適応不全

② 就労形態

雇用(1名はフルタイム、他の1名はハーフタイム)
賃金は最低賃金相当、社会保険あり

③ 特徴

- 現在の2名は、高校や中学校の先生からの依頼により、平成27年4月から開始。
- それ以前に、平成14年から26年12月まで知的障がい者2名(女性)を雇用。福祉施設からの依頼によるもので、入所施設^{*2}から通勤。

立地条件など

長谷川自然牧場は、国道110号線を秋田から青森に向かう途中の鰺ヶ沢にあります。美しい海岸と世界遺産白神山地を抱える町で、天気の良い日には、牧場から岩木山がくっきりと見えます。



障がい者が主に担う作業

- 鶏卵の採集
- 堆肥製造 ポロだし、運搬、
- 畜舎内および周辺の清掃作業

仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- 以下は、平成26年まで2名を雇用していた当時のことです。
- 2名の女性は、近くの障がい者の入所施設の利用者で、毎日、牧場へ通ってきていました。男性の多い職場の中で、知的障がいをもつ女性が働くことになったため、経営主の妻が陰ひなたにしつけや生活面を支えるなどしながら家族のような関わり方で接していました。余暇支援も充実させ、毎年小遣い付きで遠方のテーマパークなどに出かけています。
- 牧場では、仲間と働く意識の醸成を育んできました。いずれ施設からの自立を目指せるように職業面だけではなく、生活面での支援を気にながら日常の挨拶、洗濯機の使い方や掃除機のかけ方、靴の整え方までしつけ面での関わりを工夫していました。
- 職業面では仕事が体力仕事できついため、給料を得る喜びと働いた達成感にたどり着けるようにしました。



(写真：長谷川自然牧場 Web サイトより)

取り組みの経過

- はじめは、平成14年に福祉施設からの依頼で2名の女性を受け入れ、常時雇用としました。雇用期間は本人達の年齢で高卒時の18歳から30歳までになります。当初の2～3年は、仕事に習熟していないことから月3万円程度の賃金でしたが、以後は月5万円を支払ってきました。
- 平成26年の12月に、長年関わってきた2名の女性とは、施設側から急に切り出された「体力の限界」という理由で、関わりが切れてしまいました。十分な説明も無く施設側の都合と思われる面もあり、障がいのある人たちと畜産の現場で一緒に仕事をしながら温かい関わりを育んできた牧場主夫妻にとっては、挫折感が残りました。今後は、その施設と関わりを持つ予定はないとのこと。自立を目指す障がい者のためにも、施設側からは就労の開始時点のみならず、就労先の農家との間に継続的かつ十分なコミュニケーションが期待されます。

今後の展望、課題

これからについては、子ども達を中心に動物とのふれあいと楽しい農業を提供して行くとのこと。その中で、一般消費者や関係者ばかりでなく、障がい者、高齢者ともふれあえる環境を牧場で提供しながら、訪れた人が安らげるスペースづくりをめざすとのことです。引き続き、障がい者雇用に努め社会的な役割を果たしていきたいと考えています。

障がい者就労に関わる用語

- ※1 障害者手帳 → p.57
- ※2 入所施設 → p.57

関連情報

法人URL <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hasegawasizenbokuzyou/index.html>
所在地 青森県西津軽郡鰯ヶ沢町大字北浮田字平野110



養豚



鶏卵



加工ほか

東北・関東・北陸東海



有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場

～‘エコフィード’の製造工程で従業員として活躍～

千葉県旭市

ブライトピック千葉は、大規模な養豚の法人で、障がい者を従業員として雇用しています。溝原工場では、養豚の液状飼料(リキッドフィード)を生産しています。行政の助言を受け、雇用準備期間に障害者就業・生活支援センター^{※1}と密接な関係を構築してから採用活動を行い、平成19年5名の雇用を開始しました。福祉機関からの支援と協調した企業の従業員教育が実を結び、現在では16名の障がいのある従業員が雇用されています。障がいのある人は、包装食品の開封と分別、工場内での運搬作業、片づけなど清掃作業、事務作業などを担っています。

法人経営概況

- ① 経営内容
養豚業
飼料の製造(エコフィード) 日に約7,000トン
千葉県内に5つの養豚場と飼料工場
- ② 労働力
従業員34名
- ③ 法人形態
有限会社

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
17名 うち女性2名
知的、精神、身体障がい
- ② 就労形態
飼料生産を行う工場での通年雇用、1日7時間
- ③ 通勤、住まい、食事など
自宅通勤が原則。交通手段等の面で自力通勤の困難な従業員のために送迎バスを運行。昼食は各自弁当を注文。
- ④ 特徴
地域の障害者就業・生活支援センターとの密な連携

立地条件など

ブライトピック千葉は、千葉県北東部の、養豚の盛んな農村地帯にあります。地元旭市とは地産地消で連携しており、旭市産の米をエサに導入して、「千葉県旭市育ち」ラベルを貼って地元産の豚であることをアピールしています。

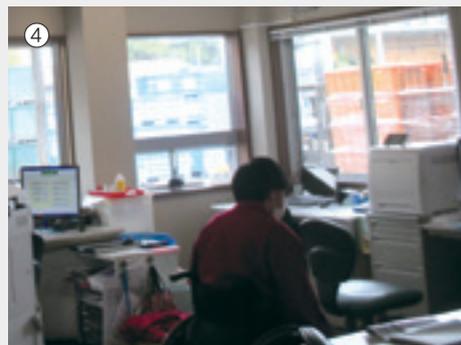


障がい者が主に担う作業の様子

- 障がい者の担当作業は、豚の飼料生産工場での作業と、養豚部門での作業があります。
- 飼料生産工場の作業は原料となる食品残さ等を取り扱うもので、
 - ①食品工場やコンビニエンスストア等より届く期限切れ包装食品の開封と分別、
 - ②フォークリフトによる工場内での運搬作業、
 - ③原料を入れるコンテナ洗浄や開封済み段ボールの片づけなど清掃作業 があります。
- 養豚部門では、豚舎の清掃を担当します。
- 事務室では、④事務作業を担当しています。
- 作業内容は、個人の技能や個性、体調等に合わせて担当職員が割り振ります。
- 作業の分担は班単位になっていて、朝礼の時に徹底して周知します。情報共有を図ることで、自主性を引き出しています。

一日の作業

- 8:00 — 通勤
タイムカード
- 8:30 — 始業、朝礼
(休憩)
業務
(昼休み)
- 13:00 — 業務
(休憩)
業務
- 17:00 — 終業
退勤



コラム

障がい者の職域を拡大する「エコフィード」利用の取り組み

エコフィード(eco-feed)とは、食品残さ等を利用して製造された家畜用飼料です。エコフィードの利用は、食品リサイクルによる資源の有効利用のみならず、飼料自給率の向上等を図る上で重要な取り組みです。原材料には、醤油粕や焼酎粕等、食品の製造過程で得られる「食品製造副産物」や、売れ残りのパンやお弁当等、食品としての利用がされなかった「余剰食品」、野菜のカットくずや非可食部等、調理の際に発生する「調理残さ」、規格外農産物等の「農場残さ」などが利用されます(農林水産省HP資料より)。

特に「余剰食品」は、通常、包装された状態で工場に持ち込まれます。製造工程そのものは機械化されているものの、包装に使われていたプラスチックなどが混入しないよう、丁寧な開封や適切な分別の作業が不可欠です。この工程での丁寧な作業は、家畜飼料の品質向上に大いに役立ちます。エコフィードによる飼養の取り組みは、障がい者の働く場の拡大にも貢献しているのです。



ベルトコンベア上に流れる余剰食品の丁寧な開封と分別

留意点、工夫してきたこと

- 同社での支援方針は、障がいの有無にかかわらず、企業の社員として甘えることなく働けるようサポートすることです。賃金は能力給を取り入れ、また工場内で使用するヘルメットは技能等により色分けされており「〇色のヘルメットを目指す」という目標設定がモチベーションの向上に寄与しています。
- 安全管理や体調に合わせた柔軟な勤務時間管理などの配慮がなされています。例えば、体調のすぐれないときには、無理をせずに退勤するよう促しています。朝礼では、体調を確認するとともに、一日の目標を全員で読み上げます。



作業マニュアル (読みがな付き)



ダンベと呼ばれる容器
作業マニュアルで洗浄方法を定型化



バリアフリー対応の事務室入口
わずかな段差だがスロープを設置している

- 一つの作業ごとに、わかりやすいマニュアルが作成されています。読みやすいように、すべての漢字に読みがなをつけています。
- 事務室は、車椅子利用の職員に配慮し、入口の床面段差をなくしてスロープ状にしたり、通路幅を広くとるなどバリアフリー対応がなされています。

- 公共交通が不便な場所にあります。自動車通勤者もいますが、自力通勤が難しい職員もいるため、マイクロバス2台を用意し送迎に使っています。



通勤の送迎バス

■ 取り組みの経緯

- ブライトピック千葉での障がい者雇用は、平成19年に5名から開始しました。障がい者を雇用すると決めてからの準備期間には、個人的な努力や知人らからの情報収集のほか、行政からの助言を受けて、障害者就業・生活支援センター（以下センター）と密接な関係を構築し、受け入れる準備を整えました。今でも、障がい者雇用を続けていくうえで、センターは必要不可欠な存在と認識されています。
- 同社は、地域では知名度の高い企業であり、近隣在住障がい者の就労先として大きな役割を果たしています。

コラム

東総就業センターの障がい者雇用における推進力

ブライトピック千葉・溝原工場では、この地域で障害者就業・生活支援センター業務を担っている社会福祉法人コザリオの聖母会「東総就業センター」が、工場内での作業内容や就労継続に関するサポートを実施しています。

就労面では、例えばセンターの職員が、同社の工場内に自由に出入りできるよう便宜を図っています（全国的には珍しいことです）。センターの職員が工場に来るときには、工場の従業員同様にTシャツを着て、決まった色のヘルメットをかぶり、従業員の中に混じって自然体で支援をしています。

また、障がい者には生活面のサポート（体調管理、金銭管理など）が必要になることもありますが、これらについてもセンターの職員が一人ひとりを支援しています。

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者就業・生活支援センター → p.56

関連情報

法人URL <http://www.brightpig.co.jp/>

所在地 千葉県旭市溝原1009

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会



武井農場

～三世代続く職親の取り組み～

千葉県富里市

武井農場は、千葉県の北東部富里市にある耕畜複合経営の養豚場です。養豚に加え、スイカと野菜の栽培を行っています。親世代のころから、職親^{*1}として、障がい者とともに暮らし、働いてきました。現在は5名が、豚舎の掃除や給餌を行ったり、畑での補助作業を行っています。地域での「職親」への取り組みの中心的な存在で、次世代の後継者も障がい者と働く形態を継承する意思があるそうです。

法人経営概況

① 経営内容

畜産経営 養豚雌豚 繁殖40頭
複合経営 スイカ0.8ha、ニンジン2.65ha、その他の露地野菜
スイカは直販あり

② 労働力

家族3名、障がい者5名
パート 年間のべ350名

③ 法人形態

個人経営

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

5名、知的障がい

② 就労形態

職親のもとでの訓練(期限あり)

③ 通勤、住まい、食事など

- 寝食を共にして就労
- 生活面(余暇、健康管理、金銭管理など)の指導あり
- 時代の流れに沿って、就労と生活の区切りを明確にするよう心がけている

立地条件など

富里市は、東京都心から約50～60km離れた北総台地の中央部に位置しています。明治期には、御料牧場が設けられ「競走馬のふるさと」として有名です。耕種農業も盛んで、近年ではスイカの産地としても有名です。

障がい者が主に担う作業の様子、工夫、留意点

- 障がい者の担当する作業は、養豚では、豚舎の清掃、給餌(配餌)で、畑の作業は、スイカやニンジンの収穫補助、定植補助などです。
- 経営者によると、障がい者の存在により養豚経営を継続することができ、堆肥の利用によりスイカの食味向上など付加価値をつけることができ、直販の固定客からの評価も高いそうです。
- 作業の切り出し方の例としては、スイカ畑でのビニル張りのよ



繁殖豚舎外観

豚舎内部

一日の作業

朝食前 — 掃除、給餌
8時 — 午前の作業(休憩あり)
12時 — 昼食
 午後は季節により変動
15時 — 給餌、畜舎の管理
17時 — 終業

うな作業では、ビニルを止めるためのピンを配る作業を障がい者が行い、止める作業は家族従業員が行うように分担しています。

- 安全面での配慮として、ほ場と隣接して交通量の比較的多い道があるため、簡単に道路に飛び出さないよう注意を促す側光センサーを設置しています。また、大型機械の操作は家族従業員が行いますが、機械に巻き込まれないように注意を徹底しています。
- 喫煙者に対しては、喫煙場所を決め、火の始末に注意させています。
- 職親を始めた頃は、昔ながらの「住み込み」の仕事という様子でしたが、時代の流れに合わせて、仕事と生活の明確な分離、金銭管理の記帳など、家族同様の温かい接し方と同時に、障がい者の社会適応訓練としての役割を明確にすることにより、周囲からの誤解が生じないように努めています。



豚舎の清掃



側光センサー

(写真提供：千葉県畜産協会)

■取り組みの経緯

- 職親を引き受けたきっかけは、この農場の先代が、県内では早期に職親登録を行っており、地域でも先進的な事例でリーダー的な存在であったことです。こうした先導的な取組により近隣地区でも職親登録をしている畜産農家が複数あります。当代は幼少時から障がい者と暮らした経験を持ち、ごく自然に「職親」を引き継ぎました。「その人の一生を預かるつもりで」職親をしています。
- よく利用するサポートの一つに地域の相談支援事業所^{※2}天羽から紹介された「いんば中核地域生活支援センターすけっと」(佐倉市)があります。月に1回程度、支援者が農場を訪れて、障がいのある人たちと話をします。(中核地域生活支援センター事業は、千葉県独自の事業です。こども、障がい者、高齢者等、対象者を限定せず、24時間365日体制で、福祉サービスのコーディネイト、相談支援、対象者の権利擁護等を行っています)

■今後の展望、課題

今後も職親として、障がい者と一緒に働く経営を行いたいと考えています。後継者も、経営と職親を受け継ぐ見込みです。ただし、宿泊施設の受け入れ人数に限りがあるため、これ以上の人数を受け入れることは難しいと考えています。

障がい者就労に関わる用語

※1 職親 → p.57

※2 相談支援事業所 → p.57

関連情報

所在地 千葉県富里市十倉

コラム

職親とは

職親とは、知的障がい者の自立と社会経済活動への参加を促進するための援助と必要な保護に熱意をもつ、事業経営者です。市町村からの委託をうけて、一定期間、知的障がい者を預かり、生活指導と技能取得訓練を行います。職親のしくみは、市町村の独自性の高い事業で、千葉県は、県独自の事業を行うなど職親を大切にしている県です。



株式会社 堀江ファーム

～教育分野での経験から職親として養豚～

千葉県富里市

経営主は、養豚を営む傍ら、地域の教育分野で貢献してきました。市からの委託で「職親^{*1}」を引き受けたことが、畜産現場に障がい者を預かることになった契機です。これまでに約10名の障がい者と一緒に仕事をしてきました。現在は、2名の障がい者と日常生活を共にしながら養豚の仕事をするにより、技能習得訓練と生活指導を行っています。障がい者は、給餌や清掃を担当しています。

法人経営概況

① 経営内容

畜産専業 養豚
 繁殖雌豚:70頭
 耕種複合部門:なし
 多角化…ブランド化に取り組む
 「ダイヤモンド豚」の開発
 「房総ポーク」の推進

② 労働力

家族4名、障がい者2名

③ 法人形態

株式会社
 平成28年法人化、一戸一法人

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

2名、知的障がい

② 就労形態

職親のもとでの訓練(期限あり)

③ 通勤、住まい、食事など

- 住居は敷地内の別棟
- 食事は経営主と共に
- 生活面(余暇、健康管理、金銭管理など)の指導あり

④ 特徴

余暇や健康管理面の配慮

立地条件など

富里市は、東京都心から約50～60km離れた北総台地の中央部に位置しています。明治期には、御料牧場が設けられ「競走馬のふるさと」として有名です。耕種農業も盛んで、近年ではスイカの産地としても有名です。

障がい者が主に担う作業の様子や工夫

障がい者の担う作業は、主に給餌と豚舎の清掃、堆肥製造です。



ふん処理作業



簡易離乳舎

一日の作業

朝食前 — 掃除、給餌
 9時 — 朝食
 朝食後 — 午前の作業
 昼食
 13時半 — 給餌、畜舎の管理
 17時半 — 終業

経営主は、一輪車さえうまく操作できる人であれば、作業は任せられると考えています。覚えた作業は、指示がなくても自主的に、こだわりを持って作業してもらえ、例えば、豚舎の床掃除を徹底的にしてくれるので助かるといいます。

また、年に1度、千葉県職親協議会が企画する潮干狩りイベントなどに、一緒に参加することを楽しみにしています。



豚舎の清掃作業



障がい者の住居

(写真提供：千葉県畜産協会)

コラム

千葉県知的障害者職親協議会による職親のバックアップ

千葉県知的障害者職親協議会は、昭和53年に設立された、県内の職親や関係者等を会員とする任意団体で、事務所を千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園内においています。この会は、就労を目指す知的障害者の福祉の向上を図ることに協力し、会員の相互親睦と資質向上のため、地域交流会や職親研修会を実施しています。会では、会費のほか、千葉県からの補助(県単独事業、28年度)を受けて、研修会経費などに充てています。会員は43名、会員の事業所では合わせて56名の障がい者が就業しています(平成28年4月現在)。業種は農業が多く、事例8の経営主の武井氏は理事を務めています。武井農場でも堀江ファームでも、交流会で行われる年に1回の「潮干狩り」をレクリエーションとして楽しみにしているとの話があり、協議会が職親らにとって重要な役割をもつことがうかがえました。

取り組みの経緯

経営主は、地域の教育関係のボランティア活動等に尽力してきました。その縁で、福祉関係者の働きかけがあり、社会貢献と考えると職親を始め、昭和60年からこれまでにのべ10名程度の障がい者を預かった経験があります。

今後の展望、課題

住宅地に立地しているため、養豚の経営規模を拡大することは困難です。障がい者の担当作業を増やすことができないので、預かる人数を増やす予定はないそうです。

サポート体制としては、卒業した特別支援学校の教員が、年に1回程度フォローアップに訪れていて、障がいのある人たちは楽しみにしています。ただし、教員が業務の合間に個人的に訪問しているため、先生の異動や退職があると途切れてしまうことが心配です。

職親も障がい者も高齢化が進む中で「職親」の登録者は、この地域でも減少しているようです。

障がい者就労に関わる用語

※1 職親 → p.31コラム、p.57

関連情報

所在地 千葉県富里市七栄